

## 英語とモンゴル語における 語彙アスペクトと進行形の共起性について

MANDAKH Oyunchimeg

### 1. はじめに

本稿では、英語及びモンゴル語<sup>1</sup>における語彙アスペクトと進行形<sup>2</sup>の共起性およびその表す意味を比較対照し、類似点および相違点を明らかにする。進行形は英語においては‘I **am reading**’のように主動詞に現在分詞語尾 -ing を付け、補助動詞 be がテンス形式により変化することにより、モンゴル語においては‘Bi **unshij baina**’のように主動詞に結合連用語尾 -j/-ch<sup>3</sup> を付け補助動詞 bai- はテンスを表す終止語尾で変化することにより表され、両言語とも迂言形つまり主動詞は補助動詞との組み合わせで成り立ち、構造的にはほぼ同じであると言える。

アスペクトは場面の内的な時間構成を捉える様々な仕方である (Comrie 1976:3)。理論的な文献に従えばアスペクトにおける対立は語彙的 (様々な語彙的項目はそれ自身の意味に基づく持ち前のアスペクト的な特質を持っている) および文法的 (動詞の屈折および補助動詞を包み込む迂言的な構造) な手段によって表される。本稿では、前者に語彙アスペクトという術語を用い、後者に文法的アスペクトという術語を用いることにする。

言語学では語彙アスペクトとしてしばしば4つのタイプ (*State: know, believe, have, desire, love* 等、*Activity: run, walk, swim, drive a car* 等、*Accomplishment: make a chair, draw a circle, push a cart, recover from illness* 等、*Achievement: recognize, spot, find, lose, reach* 等) の存在が議論されており、この考え方の根本は Aristotle に遡る。Vendler (1967) は最初に時間副詞、テンスや論理的な含意により限定される上記の個々の4タイプの動詞を認めた。Smith (1991:6) は、上記の4タイプに加えて一回的動作 (*Semelfactive: knock, cough, nod, jump* 等) というもう一つの状況タイプを提唱し、基礎的な状況タイプとして全部で5つのタイプがあると述べている。Smith はさらに、ある現象・状況が「静的か非静的か [±static]」、「持続的か非持続的 [±duration]」、「必然的な終点があるかないか [±telic]」という3つのパラメーターを持つかどうかによって、動詞の5つのタイプそれぞれが区別されると述べている。この区別は動詞のみで決まるのではなく、共起する他の文要素と共に決められる。状態は、静的で、持続的で、必然的な終点がない。活動は、非静的で、持続的で、必然的な終点がない。達成は、非静的で、持続的で、必然的な終点がある。一回的動作は、非静的で、非持続的で、必然的な終点がない。到達は、非静的で、非持続的で、必然的な終点がある。

言語における語彙アスペクト (lexical aspect) と文法的アスペクト (grammatical aspect) はお互いに独立して存在するが、また相互的に作用することもある。言語における語彙アスペクトと文法的アスペクトとしての進行形の相互作用に関しては次の二つの点を取り上げられる。一つ目は、進行的な意味を備えている形式がどのような場合において使用可能あるいは不可能かということであり、その可否を決定する規則は言語それぞれにおいて様々である。例えば、イタリア語では *spero-hope*、*suppongo-suppose*、*ricordo-remind*、*vivo-live*、*comincio-start* 等の状態述語および *udire-hear*、*vedere-see* 等のような知覚動詞は進行形が容認されない (Marchand1955:50) のに対し、英語においては幾つかの制限があり、状態動詞に進行形が容認されたり、されなかったりすることがある。また日本語においては状態動詞 (住む、信じる、思う、聞く、等) に進行的な意味を表す形式を付けることが可能であるどころかある状態動詞はその形式しか持たない。しかし、モンゴル語においては、日本語と同様に状態動詞にも進行形が容認できるが進行形式しか持たない状態動詞は存在しない。二つ目は、進行的な意味を備えている形式を使うことが可能であるが、言語それぞれにおいて表す意味が共通したり、異なったりする。例えば、以下の例文 (1a) のように日本語においては進行的な意味を表す「～ている」形式は到達述語に付けると出来事の進行ではなく、結果、つまり「もう頂上に着いた」という意味を表しているが、文 (1b)、(1c) のように英語およびモンゴル語は「まだ着いていない着こうとしている」段階つまり出来事の前置きの段階性を表している。このように英語とモンゴル語は表す意味が共通しているが、日本語は英語及びモンゴル語とは異なっている。

(1) a. 私達は頂上に着いている。

b. We *are reaching* the peak.

c. Bid uulyin orgild *hürch байна*.

## 2. 英語及びモンゴル語における語彙アスペクトと進行形の共起性

ここでは、英語およびモンゴル語における語彙アスペクトの5つのタイプである状態述語 (stative)、活動述語 (activity)、達成述語 (accomplishment)、一回的な動作述語 (semelfactive)、到達述語 (achievement) と進行形の共起性およびその表す意味を考察する。

### 2.1. 状態述語と両言語の進行形

Smith (1991:38-39) は状態場面タイプの基本的なレベル述語として a. 私的な述語、b. 人、物、概念の具体的および抽象的な特性を表す述語、c. 位置、所在の意味を表す動詞述語の3種類を取り上げている。これらに加え、d. 所有述語も考察の対象とする。

#### a. 私的な述語と両言語の進行形

Quirk et.al (1985:202-203) によると英語における私的狀態 (Private states) には知的状態 (Intellectual states: know, believe, think, wonder, suppose)、感情或は判断状態 (States of emotion or attitude: intend, wish, want, like)、知覚状態 (States of perception: see, hear, feel, smell, taste, seem, appear)、肉体感覚状態 (States of bodily sensation: hurt, ache, itch, feel) という4種類がある。

Comrie (1976:35) は「。進行性とは、進行の意味と非状態の意味とが結合したものである、という一般的な定義をあたえることができる」と述べている。これは何かが進行中であるという動作表現が状態場面に当てはまらないからであると考えられる。以下の文(2)~(5)の文‘a’のように英語においては私的な述語4種類それぞれにおいて進行形が用いられない。

(2) a. Harry knew perfectly well they’d just be disappointed that the Whomping Willow hadn’t squashed him flat. (Rowling 1998)

b. Ted uurtai ud mod tüüniig ter chigt ni havtgailaad hayachihaagüid l haramsah bolno gej dendüü sain medej bailaa.

(3) a. I wish I got more letters.

b. Bi ulam olon zahia avahyig hüsch baina. (Boldbaatar 2010)

(4) a. “I see you’ve all bought a complete set of my books — (Rowling 1998)

b. Ta nar бүгdeeree minii номыг худалдан авсныг би harj baina.

(5) a. His gums hurt after the tooth was pulled out. (Boldbaatar 2010)

b. Shüdee avahuulsnyi daraa түünüi буил övdöj bailaa.

しかし、言語によっては進行形が状態場面にも現れることが認められており、上記の文(2)~(5)における文‘b’のように、モンゴル語においては英語と異なり、状態を表す私的な述語も進行形を容認する。英語においても私的な述語では、全く進行形が用いられないとは限らない。以下の文(6)~(8)における文‘a’のように上記の4種類において進行形を容認する例も存在する。文(6)~(8)における文‘b’のようにモンゴル語においては(2)~(5)と同様に進行形が容認される。

(6) a. Yes, yes, I know what you’re thinking! (Rowling 1998)

b. Tiim tiim, bi chamaig yu bodoj baigaag sain medej baina.

(7) a. I am smelling the perfume. (Boldbaatar 2010)

b. Bi ünertei us ünerlej baina.

(8) a. My foot is hurting. (Quirk et.al 1985)

b. Minii höl övdöj baina.

英語における上記の現象について Comrie (1976:36) は「英語には、語彙的には状態動詞として扱われているものであっても、非状态的に使用されて、進行相を取ることができる。」と述べており、Leech (1971:39) はこの例外は一般に、問題の動詞に「多重部類所属性」(multiple class membership) を仮定することにより解釈可能であり (例えば動詞 feel)、知的状態述語、感情或は判断状態述語に関しては、この種に属する動詞が進行形になると積極的な心的活動を意味しており、進行形の方がためらい (tentative) を含み、それゆえに心的態度の表明としては一層丁寧な方法であり、知覚状態述語に関しては、表現されている知覚の型は「能動的」というよりは「受動的」であるから、進行は一般に排除される。また進行を用いた効果として、伝達の‘過程’が強調されていると述べている。このように英語は出来事を動的なものとして表すか状態として表すかという観点に従って私的な述語に進行形が用いられたり、用いられなか

ったりする。これに対し、モンゴル語においてはいずれの場合でも私的な述語に進行形が容認される。

**b. 人、物、概念の具体的および抽象的な特性を表す述語と両言語の進行形**

両言語における人、物、概念の具体的および抽象的な特性を表す述語に関しては、Carlson (1977)により提唱されている個性的なレベル述語 (individual-level predicates) および段階的なレベル述語 (stage-level predicates) の概念に従い二種類に分け、考察していく。述語 ‘be tall’ のような一つ目のグループは一定の特性を意味し、個人に関わる事柄には適用されない。述語 ‘be angry’ のような二つ目のグループは一時的な特性を意味し、個人に関わる事柄に適用される。

まず個性的なレベル述語に関しては、以下の文 (9a, b) のように両言語とも進行形は容認されない。

(9) a. \*I'm *being* tall.

b. \*Bi öndör *bajj baina*.

また、文 (10a, b) のように述語が個性的なレベル述語であっても、英語においては進行形が容認されるが、モンゴル語においては容認されない例も存在する。Leech (1971:45) によるとここには次の2つの別々の意味条件が含まれている: 1) 時間の広がりは一時的である、2) 動詞は人間の行動力に言及するものと解釈される。Leech によればこれら2つの条件が共に存在する場合にのみ ‘be’ 動詞に進行相が期待される。

(10) a. She *is being* polite.

b. \*Ter emegtei *eyeldeg bajj baina*.

次に段階的なレベル述語に関しては、以下の文 (11a, b) のように両言語とも進行形が容認される。それは段階的なレベル述語が一時的な特性を意味しており、進行形の ‘limited duration’ という意味に反しないからであると考えられる。

(11) a. He *is being* happy. (Leech 1971:44-45)

b. Ter *jargaltai bajj baina*.

しかし以下の文 (12b) のようにモンゴル語において進行形が容認できるが、(12a) のように英語において容認できない例もある。Leech (1971:35) によると言及されている病気が、恐らく永続的なものでなく一時的なものである場合でも、この用法は不可能である。

(12) a. \*A child *is being* ill. (Leech 1971:35)

b. Hүү *övchtei bajj baina*.

以下の文 (13a, b) のように両言語ともに進行形が容認できない例もある。

(13) a. \*It *is being* available.

b. \*Ene bol *bolomjtoi bajj baina*.

人、物、概念の具体的および抽象的な特性を表す述語に関しては、英語において個性的なレベル述語は進行形を容認したり、容認しなかったりしているのに対し、モンゴル語においては進行形が容認されない。両言語とも段階的なレベル述語は進行形を容認したりしなかったりする。

c. 位置、所在の意味を表す動詞述語と両言語の進行形

位置、所在の意味を表す動詞述語に関して、文 (14a, b)、(15a, b) のように英語においては進行形が容認されないのに対し、モンゴル語においては進行形が容認される場合がある。

(14) a. There, his black robes rippling in a cold breeze, stood Severus Snape. (Rowling 1998)

b. Har ömsgöl ni hüiten salhind dervesen Severus Sneip düreeree zogsoj baiy.

(15) a. \*He is being at home.

b. Ter gertee baij baina.

しかし、以下の文 (16a)、(17a) のように一時的な状態を指し示す場合英語において進行形を用いる場合がある。

(16) a. All he could tell was that he was standing in the stone fireplace of what looked like a large, dimly lit wizard's shop. (Rowling 1998)

b. Yamar ch baisan ter büdeg gereltei uujuu zaitai negen id shidiin delgüüriin il zuuhan dottor zogsoj bailaa.

(17) a. I am living in London.

b. Bi Londond amidarch baina.

Smith (1991:39) は、英語において動詞 lie、sit、hang 等は位置や所在を表す意味で用いられ、進行形になる場合出来事の結果状態を重視し、このような文は位置や所在を表す動詞にのみ制限されると述べており、以下の (18a) の例を挙げている。文 (18b)、(19b) のようにモンゴル語においても動詞 bai、hevt は同じく進行形が容認され、結果状態を重視する。

(18) a. Your drink is sitting on the table. (Smith 1991:97)

b. Chinii uuh yum chin shireen deer baij baina.

(19) a. Some money is lying on the street.

b. Gudamjind mongo hevtej baina.

Dowty (1991:174-175) によるとこの種の述語の進行形には主語による制限があり、多くの場合主語が移動できるものを意味するかできないものを意味するかによりその区別が説明されている。つまり上記の文 (18a)、(19a) のように主語が移動できるものを意味する時進行形になり、以下の文 (20a) のように移動できないものを意味する時進行形にならない。

(20) a. \*New Orleans is lying at the mouth of the Mississippi River.

b. N'yu Orleans Misipi golyin amand orshij baina. (Dowty 1991:174)

しかし Huddleston (2002:171) によると以下の文 (21a) のように、特に物語において移動できない永続する位置を進行形で表す例もあり、限定的な継続という特徴は客観的な状態そのものより場面の語り手の経験を反映していると説明されている。

(21) a. We reached the knoll and the peak was standing majestically above the glacier.

b. Bid tolgoin oroi deer garahad orgil mösön golyin deer sürleghen argagüi sünderlej bailaa.

Dowty (1991:175) によると以下の文 (22a)、(23a) のように flow、run、enter などの動詞は位

置を表す意味で用いられ、比較的永続的な状態を表す時進行形にできないと述べている。

(22) a. \*The river *is flowing* through the center of town.

b. Gol hotyin tövöör *ursaj baina*.

(23) a. \*The highway *is running* past the farm.

b. Hurdnii zam fermiin hajuugaar *öngörch baina*.

英語及びモンゴル語両言語とも位置、所在の意味を表す動詞述語は進行形になり、‘結果状態’の意味を表すことができる点が共通している。

#### d. 所有述語と両言語の進行形

この種に属する述語としては belong to, concern, consist of, own, resemble などがある。

以下の文 (24b) のようにモンゴル語において進行形が容認できるのに対し、文 (24a) のように英語において容認できない例もある。

(24) a. He told Dumbledore everything except that Mr. Weasley *owned* the bewitched car.

b. Noyn Viizli ter mashiniig *ezemshij baisan* gedgees busdiig Dambl dort hüürnev. (Rowling 1998)

Leech (1971:45-46) によると英語においてこの種類の動詞に ‘more and more’ のような表現を伴った場合に進行形を取ることができると述べ、以下の文 (25a) のような例を挙げている。

(25) a. He *is resembling* his father more and more as the years go by.

b. Ter jilees jild aavtaigaa ih *adilhan bolj baigaa*.

状態述語に関しては、状態場面タイプの基本的レベル述語 3 種類それに加えて所有述語の計 4 種類の述語それぞれを考察した結果、英語においては状態述語に進行形を用いる際には一方では進行形が許され、他方では許されないという様々な条件や制限があるのに対し、モンゴル語においては人、物、概念の具体的および抽象的な特性を表す述語を除きそのような制限がなく、進行形が容認される。両言語とも‘状態’及び‘結果状態’の意味を表す。

## 2.2. 活動述語と両言語の進行形

活動述語は動作に一定の持続性があり、動的で進行形の典型的タイプであると言える。活動は身体あるいは精神的な活動に関連する過程であり、過程に含まれている。Smith (1991:46) によると活動には主に 3 つの種類がある。一つ目は以下の文 (26a,b) のように原則的に際限なく進行している過程に関連する活動であり、二つ目は以下の文 (27a,b) のように数えられない内部的な段階がある活動であり、三つ目は以下の文 (28a,b) のように出来事に明らかな内部的段階がある複合的な出来事活動である。

(26) a. The child *was sleeping*.

b. Hüü *untaj baisan*.

(27) a. I *am eating* cherries.

b. Bi intoor *idej baina*.

(28) a. The wheel *is revolving*.

b. Dugui *ergej baina*.

活動述語に関しては、両言語とも制限がなく、進行形が自由に用いられており、出来事の‘進行’の意味を表す。

### 2.3. 達成述語と両言語の進行形

達成述語は活動述語と同じように動作に一定の持続性があり、動的なので、進行形と相性がいい。両言語とも以下の文 (29a, b) のように「～しているところ」という出来事の進行を表す。

(29) a. Mary *was walking* to school. (Smith1991:5)

b. Mary surguul` ruu *yavj baisan*.

しかし、Song (1997) は動詞の限界性 (telicity) の観点から韓国語、モンゴル語、英語の進行形の共通点および相違点を論じ、英語とモンゴル語では限界性を持っている他動詞、自動詞の両方とも文 (30a, b)、(31a, b) のように「～しているところ」という進行の意味かそれとも「～もうしている」という結果状態の意味を表し、その意味が曖昧になると述べている。

(30) a. John *is bending* his head. (Song 1997:387)

b. Jon tolgoigoo *tongoilgoj baina*.

(31) a. John *is sitting* in the chair. (Song1997:387)

b. Bat *suuj baina*. (Song 1997:386)

さらに、Song (1997) は上記の進行性を表わす場合と結果性を表わす場合の両方が存在することに関して、その違いを動詞の語彙的意味によるものとし、限界動詞には終了限界後の結果状態を含意するものとし、ないものがあると主張し、ある言語においてその二つの異なる段階を表す個々の動詞が存在すると述べている。例えば、以下の文 (32c) のようにモンゴル語においては動詞 *öms* は進行性および終了限界後の結果状態の両方を表すのに対し、英語においては (32a,b) のように、それに対応する二つの動詞 *wear*、*put on* があり、*wear* は終了限界後の結果状態のみを表し、*put on* が進行性のみを表す。

(32) a. He *is wearing* a sweater.

b. He *is putting on* a sweater.

c. Ter nooson tsamts *ömsöj baina*.

以下の(33a, b) のように英語においては進行形になり終了限界後の結果状態を表すが、モンゴル語においては進行形で表さない場合もある。

(33) a. He *was wearing* long green *robes*, which were dusty and travel-worn. (Rowling, J.K.1998)

b. Baingyin yavdald toosond daragdaj, ürchiisen nagoon *nömrögtei baiv*.

達成述語に関しては、両言語とも進行形が容認され、‘進行’及び‘結果状態’の意味を表す。

### 2.4. 一回的な動作述語と両言語の進行形

この種の動詞は、あまりに瞬間的で持続性があるとは考えにくい出来事に用いられる。その結果、ものごとに継続性を与える進行形で用いると、単一の出来事ではなく、一連の出来事を想起させる。以下の文 (34a,b) のように両言語共において一連の出来事が表される。

(34) a. Bill *was knocking* at the door.

b. Bill haalga *togshij baisan*.

しかし以下の文 (35a, b) のように英語においては一連の出来事が表わされるが、モンゴル語においては単一の出来事か一連の出来事か曖昧になる例もある。

(35) a. John *was coughing*.

b. Jonn *haniaj baisan*.

しかし以下の文 (36a) のように英語においては一連の出来事を表すのに対し、(36b) のようにモンゴル語においては単一の出来事が表わされ、一連の出来事が表せない例もある。

(36) a. John *was nodding* his head. (Quirk et.al 1985:208)

b. Jonn tolgoi *dohij baisan*.

しかし (37b) のようにモンゴル語において目的語が複数形式であれば‘一連の出来事’の意味が表される例もある。

(37) a. John was nodding to everybody.

b. Jon hün bolgon luu tolgoi *dohij baisan*.

以下の文 (38a, b) のように英語及びモンゴル語において共起する文脈により単一の出来事の意味を表す例もある。

(38) a. The man *was jumping* off the bus when the policeman caught him.

b. Ter huniig avtobusnaas *üserch baihad ni* tsagdaa barij avlaa.

一回的な動作述語に関しては、両言語とも進行形が容認される。ただし、その場合進行の意味ではなく、‘一連の出来事’の意味つまり‘反復’の意味を表す。両言語とも‘反復’の意味を表さず、‘単一の出来事’の意味を表す場合もある。

## 2.5. 到達述語と両言語の進行形

ある状態への移行を示す到達述語を進行形で用いた場合、英語及びモンゴル語両方とも以下の文 (39a, b) のように移行そのものよりはむしろ移行への‘接近’つまり出来事の内部的な段階から到達点の瞬間に至るまでの出来事の前置きに重点が置かれ、「まさに～しようとしている」の意味を表す。

(39) a. Algernon *is reaching* the top. (Smith 1991:97)

b. Aljernon orgild *hürch baina*.

しかし、以下の文 (40a, b) のように両言語とも瞬間的な意味を表していることにより進行形を容認できない例もあるのに対し、以下の文 (41a, b) のように両言語において共起する他の文要素 (目的語、主語など) により進行形を使える場合もあり、その場合‘反復’の意味を表す。

(40) a. \*I *'m finding* my watch.

b. \*Bi tsagaa *olj baina*.

(41) a. I *'m finding a lot of watches*.

b. Bi *olon tsag olj baina*.

しかし文 (42a, b) のように英語において進行形を用いないのに対し、モンゴル語において用



いる場合もあり、その場合‘結果状態’の意味を表す。

(42) a. \*I *was recognising* her. (Huddleston 2002:121)

b. Bi tūüniig *tanij baisan*.

到達述語に関しては、両言語において進行形を容認できるおよびできない場合があり、容認できる場合に関しては、‘進行’の意味ではなく、出来事の終点に接近しているという‘前置きの段階’、‘反復’、‘結果状態’の意味を表す。

### 3. まとめ

以上、英語及びモンゴル語の進行形と語彙アスペクトとの共起性および表す意味を比較対照し、類似点および相違点を見てきた。本稿で取り上げたのは、次のような相互関係である。

表 1. 英語およびモンゴル語における語彙アスペクトと進行形の共起性および表す意味

述語種類		英語の進行形	モンゴル語の進行形	
状態述語	私的述語	知的状態	△状態	○状態
		感情或は判断状態	△状態	○状態
		知覚状態	△状態	○状態
		肉体感覚状態	△状態	○状態
	人、物、概念の具体的および抽象的な特性を表す述語	個性的なレベル述語	△状態	×
		段階的なレベル述語	△状態	△状態
	位置、所在の意味を表す動詞述語	△状態、結果状態	○状態、結果状態	
所有述語	△状態	○状態		
活動述語		○進行	○進行	
達成述語	ケース(1)	○進行	○進行	
	ケース(2)	○進行／結果状態	○進行／結果状態	
	ケース(3)	○結果状態	○進行／結果状態	
	ケース(4)	○進行	○進行／結果状態	
	ケース(5)	○結果状態	×	
一回的な動作述語	ケース(1)	○反復	○反復	
	ケース(2)	○反復	○単一の出来事／反復	
	ケース(3)	○反復	○単一の出来事	
	ケース(4)	○単一の出来事	○単一の出来事	
到達述語	ケース(1)	○前置きの段階	○前置きの段階	
	ケース(2)	×	×	
	ケース(3)	○反復	○反復	
	ケース(4)	×	○結果状態	

(○一進行形を容認する、×一進行形を容認しない、△一進行形を容認できるおよびできない場合がある)

注釈：

1. 本稿では、モンゴル国において標準方言として話されているハルハ方言を対象にしている。
2. 両言語における進行形の重要な機能は進行アスペクトを表すことであり、進行アスペクトは理論的な文献において文法的アスペクト(grammatical aspect)の下位分類である不完結相(imperfective)の下位分類として位置づけられている。(Comrie 1976:25)を参照。
3. 前に起こる子音により二つの交替形式がある。モンゴル語のキリル文字を次のように表記した。  
а-а, б-б, в- в, г-г, д-д, е-е, ё-ё, ж-ж, з-з, и-и, й-й, к-к, л-л, м-м, н-н, о-о, ө-ө, п-п, р-р, с-с, т-т, у-у, ү-ү, ф- ф, х-х, ц-ц, ч-ч, ш-ш, щ-щ, ь-’, ь-’’, ы-ы, э-э, ю-ю, я-я.

参考文献

- Comrie, Bernard (1976) *Aspect: An introduction to the study of verbal aspect and related problems*. Cambridge: Cambridge University Press.
- Comrie, Bernard (1976) 『アスペクト』 (山田小枝訳 1988) むぎ書房
- Dowty, David Roach (1991) *Word meaning and Montague grammar*. Kluwer Academic publishers. Dordrecht The Netherlands ISBN90-277-1008-2.
- Huddleston, R.D. and G.K. Pullum (2002) *Cambridge Grammar of the English Language*. Cambridge: Cambridge University press.
- Hans Marchand (1955) On a question of Aspect: A comparison between The Progressive form in English and that in Italian and Spanish, in *Studia Linguistica: revue de linguistique générale et compare/Swedish Council for Research in the Humanities and Social Sciences (HSFR)*. 9(1-2), 45-52.
- Jae-Mog Song (1997) *Tense, Aspect and Modality in Khalkha Mongolian* University of London, PhD dissertation.
- Leech, G.N. (1971) 『意味と英語動詞』 (Kunihiro 訳 1976) 大修館書店
- Quirk, R., S. Greenbaum, G. Leech and J. Svartik (1985) *A Comprehensive Grammar of The English Language*. London: Longman. ISBN0-582-51734-6.
- Smith, Carlota S. (1991) *The Parameter of Aspect*. Studies in linguistics and Philosophy 43. Dordrecht, Boston, and London: Kluwer Academic Publishers.
- Vendler, Z. (1967) Verbs and times. In Z.Vendler, *Linguistics in philosophy*. Ithaca, New York : Cornell University Press.

用例出典

- Boldbaatar, D. (2010) *English Mongolian Dictionary*, UB. ISBN978-99929-50-90-0.
- Rowling, J.K. (1998) *Harry Potter and the Chamber of Secrets*, London: Bloomsbury. trans: Myandas, N., Batsoyombo, Ts. (2011), UB: NEPKO publishing.